Gallery
愛海詩
えみし

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。
◎ギャラリー愛海詩へいらっしゃる時は、そのご予定をお手数ですがお電話下さい。

江戸切子
伝統工芸士
門脇　裕二 作品展
～光と遊ぶ～
7月26日～8月14日

彩遊の号　No.43
愛海詩の会
会　報
令和4年7月15日発行
編集発行人／ギャラリー愛海詩
佐藤睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX／(011)613－1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

大暑の節気

暑中お見舞い申し上げます。

引き続きのコロナ禍で、気をつけつつではございますが、今年の夏は「彩遊の号」でのご挨拶ができます事に（それは作品展ができる…ということです）ホッと致し、職人共々思いを繋げて行こうと働いております。この夏の札幌に、江戸切子・門脇裕二氏の確かな作品の数々が、白南風と共に渡って来るような気もして、多くのみなさんにその光のプリズムを楽しんでいただき、足を運んで下さいますよう、願っております。

私は、以前から江戸切子の職人が、とても気になっておりました。先月六月にようやく東京出張へ行けるようになり、この度、ご縁をいただきましての作品展でございます。

このコロナ禍で、二年半ほど仕事の出張による、手、足、目、耳は使えない状態で、現場にこそより確かな答えがある、と思う私には、なんとも切ない思いでありました。この度の久々の出張は、いつも以上によく歩き、出合い、語りました。来年は、ギャラリー愛海詩・愛海詩の会が二十五周年を迎える、ということもあり、画廊やギャラリー巡りも致しました。

多くの素敵な方々との出合いは各々の立場で励んでおられる姿、このコロナ禍を乗り越えて進んで行こうとしている清々しさ、その魂の小さなきらめきが、うれしく、共鳴でき、仕事をする上でのエネルギーもいただきました。ハードなスケジュールでしたが、我が身を振り返り、思索の種もいただいて、不思議と疲れは感じませんでした。

札幌に帰り、ホッとしつつ、またみなさんに喜んでいただけますよう、仕事に励みます。

盛夏、愛海詩の会の会員始め、みなさま、佳き日々の中で、暑さを従えつつも心身共に健やかでいらっしゃることを心より祈ります。

（佐藤　睦子）

上記写真：創作中の門脇裕二氏
仕上げの状態を丹念に見て最終調整をしているところ

略　歴

1971年	東京都江東区に生まれる
1989年	工業高校卒業
1989年	ミツワ硝子工芸入社
1995年	ミツワ硝子工芸退社
1995年	門脇硝子加工所入社
2009年	東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞理事長賞（大賞）
2010年	東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞奨励賞
2012年	東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞奨励賞
2013年	東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞優秀賞
2014年	東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞奨励賞
2019年	伝統工芸士　認定

「ご挨拶～作品展によせて～」

江戸切子　門脇硝子加工所
二代目　門脇　裕二

江戸切子の世界で早三十年、励んでおります。

最近はコロナ禍の影響で、江戸切子を販売する機会がずいぶん減ってしまったと実感しています。

この度、ギャラリー愛海詩様のご厚意により初個展を開催させていただくことになり、大変有り難く思っております。

江戸切子は手作りガラス製造元で型ぶきでグラスなどを色被せガラスを作っていただき、そのグラスを割り出し、ダイヤのホイール盤で粗摺り、三番掛け、石掛け、磨き、バフ掛けと仕上げていきます。大変手間がかかる工程をいくつもたどって作品が仕上がります。伝統的な模様は籠目文、麻の葉文、七宝文など、約十数種類があり、中でも菊つなぎ文が一番、線の本数や手間がかかり、ある程度修業を積んでいなければ身につかない技術です。

江戸切子の良さ、美しさをみなさまに知っていただきたく思います。

北海道の方々や愛海詩の会員様に手に取ってご高覧いただけます様、ご案内申し上げます。

江戸切子製作工程

1 割り出し（わりだし）
カットの目安となる縦横の印を付ける。

2 粗摺り（あらずり）
ダイアモンドホイールに水をつけながら硝子を削り、大まかなデザインを決めていく。

3 三番掛け（さんばんがけ）
ダイアモンドホイールに水をつけながら粗摺りをもとに、より細かくなめらかなカットを施す。

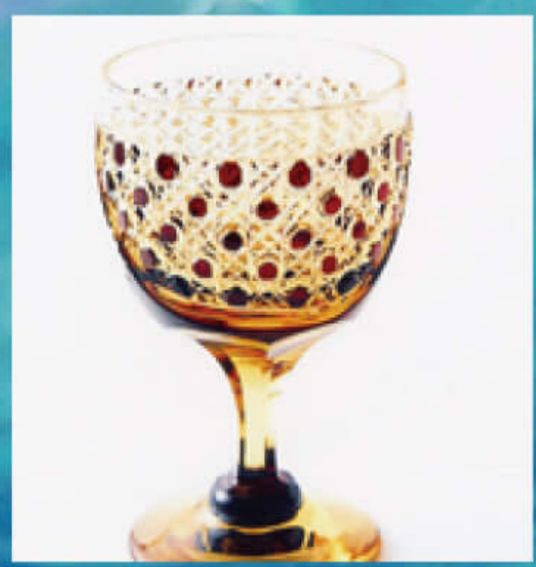
4 石掛け（いしかけ）
人工砥石や天然石に水を付けながら加工し、カット面をよりなめらかに仕上げていく。

5 磨き（みがき）
木盤や樹脂系パッド等に水溶きした研磨剤をつけてカット面の光沢をだす。手磨きで調整する。

6 バフ掛け（ばふがけ）
フェルトや綿など繊維の回転盤に研磨剤として酸化セリウムを水溶きしたものをつけ、磨きの仕上げをする。

お知らせ

七月三十日(土)、三十一日(日)の両日、ギャラリー愛海詩の佐藤が江戸切子についてレクチャー致します。
午後三時から午後四時半まで、ギャラリー愛海詩　二階で両日共に先着5名様です。
参加ご希望の方は、メールあるいはお電話にてご予約下さい。
楽しい実りある会になりますよう…。



琥珀色赤被せクリスタル食前酒グラス
（口径5.5cm×高さ9.4cm）
懐かしく、愛らしく感じる作品です。酒杯としてだけではなく見立てをして用途を楽しめます。長く側に置いて豊かに楽しみたい作品です。

琥珀色ルリ被せクリスタルロックグラス
（口径7.1cm×高さ8.8cm）
ため息が出るような美しさです。その削りの技にも感嘆します。菊籠目文、笹の葉文によるシャープさが迷いも、ゆるみも、戸惑いもありません。使ってみたい作品です。

琥珀色ルリ被せワイングラス
（口径6.4cm×高さ17.0cm）
琥珀とルリの色調を捉えるポーラスターは自身の確かな揺るぎない位置を示してくれるようなデザインです。ワインが一層おいしくなります。

琥珀色緑被せクリスタルビールグラス
（口径5.5cm×高さ9.9cm）
籠目文（かごめ）と魚子（ななこ）文の細やかさがその色合いと共に懐かしさを醸し出します。至福のひと時、光の粒の調べを感じます。

金赤・クリスタル冷茶器
（口径8.8cm×高さ6.0cm）
涼しい風が吹いて来るような茶器。心が静まり、夏の暑さを忘れさせてくれます。健やかで清々しい作品です。

内被せ緑クリスタルぐい呑
（口径5.8cm×高さ5.2cm）
透明感がある美しいアクアを思わせる色、菊繋ぎ文は、光のプリズムをどのように伝えてくれるでしょう。時々の光の変化を楽しみたい器でもあります。

江戸切子、伝統工芸士・門脇裕二氏の北海道、ギャラリー愛海詩で初めての作品展です。

門脇氏は三十年余り、江戸切子の世界で切磋琢磨して、より以上の作品を作ることを信条として、励んでおります。今回初めて門脇氏と話しをしてまず思ったことは、江戸っ子の職人気質で、歯切れが良く迷いがなく、話の筋をどんどん捉えて行く。その人柄がそのまま作品に昇華されているとも思います。当ギャラリーではめずらしく、作品展がトントンと決まり、準備期間が短いのですが、中身が濃い作品展となっております。お皿・タンブラー・鉢・抹茶盌・ぐい呑・ロックグラスなど、約四十点を展示しております。琥珀色を使った高級アンティークを思わせる作品、こまやかな技とデザインの数々、この繊細な技術を多くの方々に見ていただきたく思います。

長く使えば使うほど、江戸切子の作品に物語が増えて行きます。その作品の美しさが、生活の中で彩りとなるのは間違いありません。

是非ご高覧下さいませ。